

平成 31 年度全国学力・学習状況調査の結果概況について

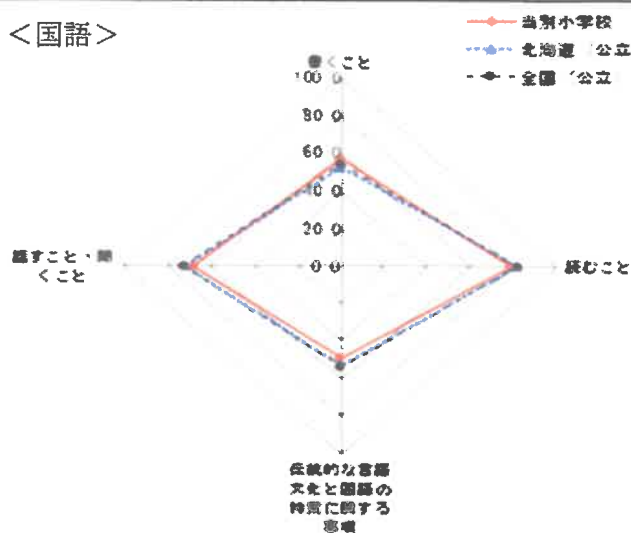
当別小学校校長 渡邊 久徳

毎年4月に全国の小学校6年生・中学校3年生を対象に実施されます。昨年度までは、「知識」を問うA問題・「活用」能力を問うB問題に分かれていました。(国語A・国語B・算数A・算数B)が、今年度より一体的に問う問題形式となり「国語」「算数」となりました。「理科」は、平成24年度より3年に一度の実施となり、来年度実施される予定です。

【平均正答率】 ※全道の平均正答率は整数で公表

	国語	算数
全国	63.8	66.6
全道	63	64
当別小学校	全国平均正答率に比べほぼ同様	全国平均正答率に比べほぼ同様

<国語>

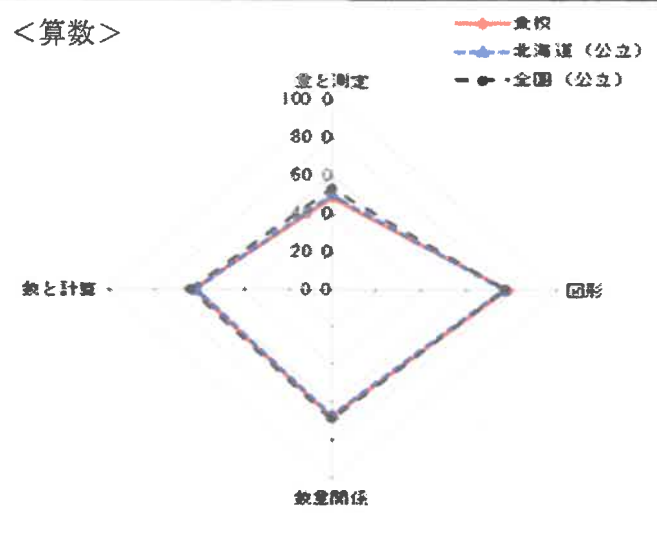


国語の学習には、【話すこと・聞くこと】【書くこと】【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】の4つの領域があります。この度の学力調査では、4領域中1領域【書くこと】において全国平均をやや上回る結果となっています。

問題形式は、選択式・短答式・記述式の3種類。一般的に自由記述ではなく、条件が付加された記述式問題の正答率が例年低い傾向が見られます。ただし、無回答が少なく、粘り強く取り組んだ様子が見られました。

①限られた時間の中で初めて目にする文章を読み解き、その目的や内容をつかむ力 ②文章の内容に対する自分の考えを明確にし、その理由をまとめて書く力…が求められています。学習の中でもこのような視点を意図的に取り入れ、学習活動をデザインしていきたいと思えます。

<算数>



算数の学習には、【数と計算】【量と測定】【図形】【数量関係】の4つの領域があります。この度の学力調査では、4領域中3領域【数と計算】【図形】【数量関係】において全国平均をやや上回る結果となっています。

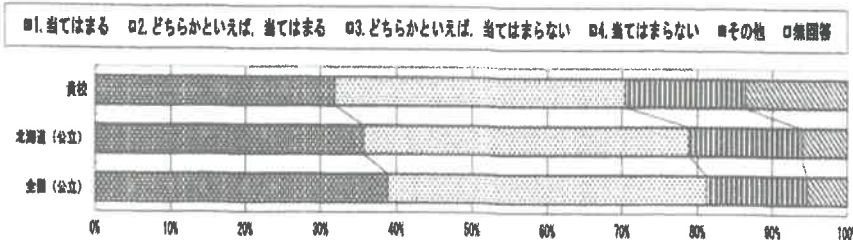
本校に限らず、一般的に「計算で正しい解を求める」「正しく作図する」等の問題については、正答率が高くなります。反面、「この式は何を意味しているか説明しなさい」「求め方を言葉や式で書きなさい」という記述式の問題においては、正答率が低くなります。

かつては、正しい解を求めることに重きを置いてきましたが、現代の子どもたちには、【情報を活用し、解き方やその意味を自分の言葉で説明する(書く)力】が求められています。国語同様に、学習の中で意図的にこのような学習活動の場面を設定し、経験を積み上げていきたいと思えます。

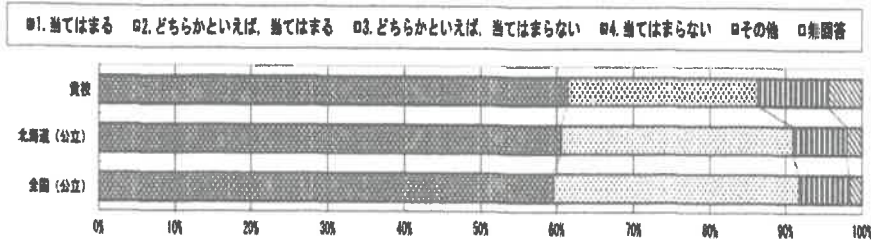
■「児童質問紙」…国語・算数の学力調査の他に、学習や生活に関する質問が58項目あります。

児童質問紙に見る特徴的な傾向 ～ 抜粋 ～

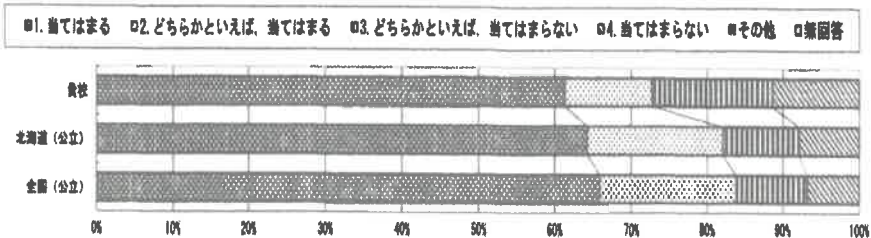
【問】自分には、良いところがあると思いますか。



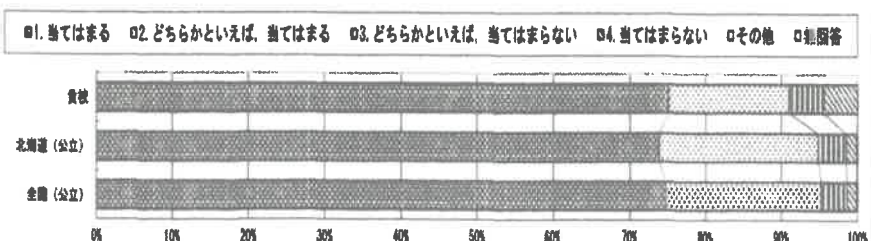
【問】先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。



【問】将来の夢や目標を持っていますか。



【問】人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



他にも

△家の人と学校での出来事を話していますか。

△学校の行くのは楽しいですか。

△難しいことでもあきらめずに挑戦していますか。…等々

家庭での学習時間は、30分以上2時間未満と全国・全道的にも少ない傾向が見られます。しかし、自分で計画的に取り組んでいる児童の割合が高く、毎日必ずという意識をもって取り組んでいることは大変素晴らしいです。「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」という質問に対してやや低い傾向が見られました。また、学習について、「学習が好き・学習が大切」という質問に対して、やや低い傾向が見られました。一人ひとりの良さを認め、励まし、学ぶ楽しさや学びが生活に生きる実感を味わわせることを全教職員で肝に銘じ、組織的・意図的な教育活動を構築したいと思います。

これからへ向けて…家庭で・学校で力合わせて！！

1. 基本は、『生活習慣』

早寝早起き・朝ご飯。TVやゲーム、スマホは時間とルールを決めて

2. 学習の時間(時刻)を決めて

めりはりを効かせ、自分で決める経験を積み重ねながら

3. 集中できる環境で

TVや音楽を消して。きれいな机の上で。正しい姿勢で。

4. 必要な学習内容を見極めて

学習内容が多くなる高学年は、自分に必要な学習を見極める力が大切。

5. 毎日の積み重ねを自信に

大人が子どもを認め、励ます…その積み重ねが子どもの自信へ

6. やりっ放しにしない

できていないときは、具体的なアドバイスをし、やり直しをさせ、できるようにして「ほめる」

学校では、「ドリカムプロジェクト」による学力の定着、向上、授業改善の取り組みを行います。

①TT、少人数指導、個に応じた指導の充実

②家庭学習の習慣化、及び模範となるノートの表彰による励み

③授業では、意見を交流しながらまとめたり、協働して活動したりする活動を通して達成感・満足感を味わわせることができる場面の設定 等

学校では、各種調査アンケートから、本校児童のよさや課題を明らかにし、一人ひとりの児童がよりよく、より豊かに生きるために必要な力を全教職員で育てていきます。地域・保護者の皆様のご協力をお願いいたします。